

科目名	インターンシップ		英文表記	Internship		平成29年3月13日		
科目コード	4201							
教員名：4年担任・副担任 技術職員名：						作成		
対象学科／専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
情報通信システム工学科			4年	必	履修	3単位	実習	通年
科目目標 【MCC目標】	<p>① 座学や実験などで学んだ知識が社会活動にどのように関わっているかを研修/実習を通して理解する</p> <p>② 研修/実習を通して、自分自身の現状を理解し、仕事への適性を考えることができる</p> <p>③ 研修/実習を通して、社会活動を円滑に進めるために必要な要素・能力・知識を認識する</p> <p>④ 企業における多様な価値観を認識することができる</p> <p>【Ⅶ-A】進路の対象としての特定の企業の特徴や人材のニーズについて、コミュニケーションなど様々な方法で必要な情報収集でき、教員や企業人材のアドバイスのもと進路選択の判断に利用できる。また、現状で何が不足しているか、何を高めていかなければならないかを理解してその後の学習の動機づけに結び付けられる。</p>							
総合評価	<p>各学生の作成するインターンシップ報告書・日報(60%)</p> <p>インターンシップ発表と資料(20%)</p> <p>企業研究などの提出物(20%)</p> <p>で評価し、合計点が60%以上で合と評価する。</p>							
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック				
				理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限必要な到達レベル(可)	セルフチェック	
	25%	① 座学や実験などで学んだ知識が社会活動にどのように関わっているかを研修/実習を通して理解する。(B-1, B-2, B-3, C-1, C-2, C-3)	インターンシップ先企業からの評価書、各学生の作成するインターンシップ報告書、企業研究などの提出物、インターンシップ発表で評価	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が企業などでどのように活用・応用されているかを理解できる。	高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が企業などでどのように活用されているかを理解できる。	研修/実習を通して、仕事の内容や進め方を理解することができる。		
	25%	② 研修/実習を通して、自分自身の現状を理解し、仕事への適性を考えることができる(A-1, A-2, A-3, C-1, C-2, C-3)	インターンシップ先企業からの評価書、各学生の作成するインターンシップ報告書、企業研究などの提出物、インターンシップ発表で評価	研修/実習を通して、自分自身の現状を理解し、仕事への適性を考え、行動することができる	研修/実習を通して、自分自身の現状を理解し、仕事への適性を理解することができる	研修/実習を通して、自分自身の現状を理解することができる		
	25%	③ 研修/実習を通して、社会活動を円滑に進めるために必要な要素・能力・知識を認識する(B-1, B-2, B-3, C-1, C-2, C-3)	インターンシップ先企業からの評価書、各学生の作成するインターンシップ報告書、企業研究などの提出物、インターンシップ発表で評価	研修/実習を通して、社会活動を円滑に進めるために必要な要素・能力・知識を認識することができる	研修/実習を通して、社会活動を円滑に進めるために必要な要素・知識を認識することができる	研修/実習を通して、社会活動を円滑に進めるために必要な要素を認識することができる		
25%	④ 研修/実習を通して、社会活動を円滑に進めるために必要な要素・能力・知識を認識する(B-1, B-2, B-3, C-1, C-2, C-3)	インターンシップ先企業からの評価書、各学生の作成するインターンシップ報告書、企業研究などの提出物、インターンシップ発表で評価	個々の企業における多様なポリシーや価値観を認識することができる	企業におけるポリシーや価値観を認識することができる	企業におけるポリシーを認識することができる			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	<p>&lt;本科教育目標&gt;</p> <p>(3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する</p> <p>(4) 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する</p>			
			○	◎				

評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		0	0	90	10	100	
基礎的理解	①②			20		20	
応用力(実践・専門・融合)	③④			40		40	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	③④			10	10	20	
主体的・継続的学修意欲	②③④			20		20	
授業概要、方針、履修上の注意	<p>・学校教育と研修/実習の結合により学習効果および学習意欲の向上を図り、高い職業意識を育成し、自主性・独創性のある人材の育成を目指す。</p> <p>・各種企業・官公庁等での実習(体験)により、修得した専門知識や技術に裏打ちを与えたり、実社会で必要な素養・能力・価値観の必要性を体験・自覚させ、実社会の生きた知識を身につける。</p> <p>※ 受け入れ先企業の中での体験学習であるため、服装やマナーに関しては十分な注意が必要である。</p> <p>※ 対面時間(45分×30週:30単位時間)、研修/実習の日数は原則5日間(土日休日除く、5日×1日8時間勤務=40時間:53単位時間)、各自の取り組み(6時間以上:7単位時間以上)とします。</p> <p>※ 企業によってインターンシップ日数に違いがあるため、研修/実習時間が40単位時間に満たない場合は、事前・事後の企業研究等と課すことによって単位時間を満たすことがあります。</p>						
教科書・教材	<p>教員が配布する資料            企業から配布される資料            その他インターンシップに関わる資料・新聞情報など</p>						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1	ガイダンス・企業研究(社会活動の理解)	15	インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンスし、インターンシップ先の企業研究を行う。 1. 企業研究 2. 企業のマッチング 3. エントリーシートや履歴書の書き方 4. インターンシップに向けての心得 など	志望理由 企業研究 レポート エントリーシート 履歴書 など	
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14	インターンシップに向けた各自の取組	7	事前課題、企業研究ノートなど		
15	インターンシップ	53	夏季休業中に5日間(8時間/日)以上実施する ①実務を経験する ②高専での授業の関連性を理解する ③仕事の進め方を考え、自ら行動し、適性を考える ④企業の社会的責任を理解する	企業における業務日誌の作成、企業内での研究報告会およびその準備	
期末	期末試験	[2]			
16	成果報告と準備	3	インターンシップ報告書の作成と発表	本校におけるインターンシップ報告書の作成・報告会の準備	
17	キャリア教育	12	1. 業界研究会 2. SPI 3. 進路選択 4. エントリーシート・履歴書の書き方 など	エントリーシート 企業研究ノートなど	
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		90	実時間	67.5	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①	企業研究によるレポート			2時間×7回	
②	企業研修中の業務日誌の作成			2時間×5回	
③	本校におけるインターンシップ報告書の作成・報告会の準備・進路に関する検討			2時間×5日	
<b>備考欄</b>					
(各科目個別記述) ・この科目の関連科目は情報通信システム工学科の科目関連図を参照のこと。 (モデルコアカリキュラム) ・対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 (航空技術者プログラム) ・【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。 (学位審査基準の要件による分類・適用) 科目区分：[関連科目] 工学および周辺技術等に関する科目					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)